



平成 29 年度 学位記授与式・修了式



平成 30 年度 入学式ご来賓



平成 30 年度 入学式

**特集 動き出した千葉・和歌山看護学部 (2～3ページ)**

ここでは学位記授与式・修了式並びに入学式について報告します。平成29年度の学位記授与式・修了式は平成30年3月20日(火)14時から、東京・目黒区の「めぐろパーシモンホール」にて開催。当日の卒業生・修了生の数は588名となり、この内東が丘・立川看護学部看護学科の災害看護学コースの卒業生88名が初めての卒業を迎えました。また、当日の夕刻には「渋谷セルリアンタワー東急ホテル」において学部卒業生による「卒業を祝う会」が開催され、恩師を囲んで卒業生が4年間の思い出を語り合う姿が随所で見られました。【写真上段】一方、平成30年度の入学式は平成30年4月3日(火)13時から、東京・練馬区の「練馬文化センター」で行われ、今年度から学部を開設した千葉看護学部看護学科の入学生107名を含めて合計で679名が晴れて入学しました。当日の来賓の方々からは暖かい激励のお言葉をいただくなど、門出を祝うにふさわしい、厳かな雰囲気の中で執り行われました。また、入学式の終了後には本学の学事顧問であり、元国立病院機構東京医療センター院長を務められた松本純夫先生に貴重なお講演を賜りました。【写真下段】中段の写真はご来賓。左から亀山N.T.T東日本関東病院院長、楠岡国立病院機構理事長、尾身地域医療機能推進機構理事長、青木目黒区長、中川原品川区副区長の各氏。なお、和歌山看護学部の入学式は4月8日(日)13時から和歌山市の「和歌山県民文化会館」にて開催、104名が入学。その模様は3ページをご覧ください。

CONTENTS  
目次

- 2 ・特集:動き出した千葉・和歌山看護学部  
千葉看護学部  
和歌山看護学部
- 3 医療保健学部 看護学科
- 5 医療保健学部 医療栄養学科
- 6 医療保健学部 医療情報学科
- 7 東が丘・立川看護学部 看護学科
- 8 千葉看護学部 看護学科
- 9 和歌山看護学部 看護学科

- 10 大学院 医療保健学研究科
- 11 大学院 看護学研究科
- 12 ・平成29年度 卒業生学科別進路状況  
・平成30年度 公開講座実施計画
- 13 ・平成30年度 学生募集に係る入試実施結果  
・平成29年度 決算報告(速報値)
- 14 ・平成29年度 各種国家試験受験結果一覧
- 15 ・研究協力 ・国際交流
- 16 ・Topics

## 千葉看護学部：試行錯誤を通して看護の力を育んでいます。

千葉看護学部開設にあたってご支援ご鞭撻を賜りました地域医療機能推進機構（JCHO）をはじめ多くの関係者の皆様に深く御礼を申し上げます。早いもので開設から2か月が経ちました。

4月3日の入学式ではスーツに身を固め緊張した面持ちでいた新入生も、この頃はすっかりリラックスしてキャンパスライフを楽しんでいます。当初は目が合っても顔を伏せがちだった学生が、今は明るい声で「おはようございます」と声をかけてくれます。



船橋キャンパス

入学式後のガイダンスで、千葉看護学部では学生の皆さんに試行錯誤（try and error）を推奨するとお話ししました。特に、本学部は地域包括ケアに貢献できる看護師の育成を目指していますが、地域包括ケアシステムは新しい仕組みですので、模範となる前例がありません。したがって、本学部で目指す能力を学生が獲得するには、自らの判断と工夫により実践し、それを振り返って適切であったかどうかを分析するということを繰り返し、判断と実践の精度を高めていく、つまり試行錯誤できることが不可欠だからです。

千葉看護学部の学生たちは、しかし果敢にこの期待に応え始めてくれています。例えば、サークルを立ち上げたいという希望は複数上がってきています。また、体育館を使って有り余るパワーを発散させたい！と思い、行ってみたらキャンパスで一緒にいる船橋中央病院看護専門学校の学生も同じ時間に使う予約をしていた。そこで合同で活動をしましたという報告もありました。ピンチを失敗と思わず、チャンスと捉え予想以上の成果を得る…嬉しい限りです。



体育館での活動

こういった学生のまっすぐな意欲に教職員も真正面から向き合っています。たとえば、前述の例では体育館の予約システムを、先輩後輩とともに学んでいく看護学校と共同していける体制に整える検討を始めました。また、大学の授業のスピードについていけない、授業スライドの写真を撮ってもよいだろうか？という学生からの問いかけに対し、早速検討を行い、回答を掲示しました。教職員も試行錯誤をしながら、1回生だからこそ経験できる貴重な機会を学生が思う存分活かせるよう、全力で支援していきたいと思っています。

5月1日と2日には、国立オリンピック記念青少年総合センターで全学合同の研修が行われました。そこでも課題に真剣に取り組む学生の姿を見ることができました。この合宿では学部別企画があり、千葉看護学部は和歌山看護学部との合同研修を行いました。内容は、千葉県・船橋市と和歌山県・和歌山市に関する情報を持ち寄って、比較しながら共通点と相違点を分析し、健康課題を検討す

るというものです。他学部と一緒できる貴重な機会を活かし、それぞれのホームグラウンドとなる地域を理解することが目的でした。実は、この研修の事前準備段階では、「和歌山の学生はどんな人か？」「うまく話せるか不安…」という声が聞こえてきていました。しかし、いざ研修となったとき、学生は緊張を乗り越えてチャレンジする姿を見せてくれました。最初は遠慮がちにディスカッションしていたものが、発表が近づくにつれ熱い共同作業となっていくことが印象的でした。これにより学生はそれぞれの県・市の良さを改めて学ぶとともに、何より不安を抱えながらもグループメンバーと協働することで、学びが何倍にもなることに気づけていたようです。Try and errorに取り組み、その成果を実感できた意味ある研修であったと思います。



グループワーク

今後の予定としては、5月29・30日、6月28・29日に、臨地での見学演習（看護学概論）を行います。演習の前に看護とは何かを概観し、老年・在宅、地域、臨床、精神、母性、小児の各看護学について、その特徴と4年間で何をどう学んでいくのかの講義を受けた学生は、もっと学びたい、力をつけたいという思いを大きく膨らませたようです。なお、この段階で、学生にとって大学でのまた別の初めての経験である「中間試験」が行われました。結果も重要ですが、大学での勉強方法を考える機会として欲しいと思います。

いよいよとなった臨地見学演習は、船橋中央病院を始めたとするJCHOグループ病院の病棟や検診センター、地域連携室、保育園や中学校等のうちから2か所で行います。事前に個人情報保護の必要性や倫理的な態度とは何かを学び準備をしました。ここでは、臨地実習先の皆さまのご協力のもと、多様な人々と看護に出会い、理論として学んだ看護の役割を、実際の体験により深く理解してくれることを願っています。



臨地見学演習

多くの皆様のご指導ご支援を得て、千葉看護学部の学生が「病院も含めた地域を全体としてみて実践し、つなぐケア」を理解し、創造していくのが本当に楽しみです。

千葉看護学部長 みやもと 宮本 ちづこ 千津子

## 地域での健康支援を目指し、和歌山看護学部一期生入学

和歌山看護学部の入学式が4月8日（日）に和歌山市内の県民文化会館で挙行されました。県内で看護学部を持つ大学は県立医科大学に続き2校目となります。本学部は和歌山県、和歌山市、日本赤十字社和歌山医療センターと連携して設立された学部であり、県と市が中心市街地活性化のために3大学を誘致した第一号でもあります。新入生のうち100名を県内出身者が占め、地元での活躍が期待されています。

来賓として関係3者の長が見えましたが、それぞれ祝辞を賜り、仁坂 和歌山県知事からは、多くの運命的な出会いがあつて本学部が設立された経緯をもとに、新入生を「運命の子ら」と称して、立派に育ててほしいと話されました。また、尾花 和歌山市長からは「地域完結型の医療を実現するために、地域社会が皆さんを待っています」と励ましの言葉がかけられました。平岡 日本赤十字社和歌山医療センター院長からは「チーム医療の中でしっかり活躍できる看護師になって、社会に飛び立っていただきたい」と活躍を期待されるお言葉をいただきました。



仁坂 和歌山県知事



尾花 和歌山市長



平岡 日本赤十字社和歌山医療センター院長

新入生代表の西田愛梨さんは「地域医療の中心を私たちが担えるように、責任感を持って学びたい」と挨拶し、学友会長の森紗奈さんが新入生を歓迎してくれました。

式典終了後、和歌山市出身のバイオリニストで東京藝術大学学長の澤和樹先生から「看護と音楽～癒しを考える～」と題しての講演と演奏がありました。講演では、人間らしく生きるために音楽が関係していることを科学的根拠に基づいて話されました。演奏は、ピアニストの妻・蓼沼恵美子先生とともに披露され、会場全体が癒しと感動に包まれました。



木村学長・田村副理事（看板前にて）



県民文化会館 大ホールにて挙行



演奏される澤先生並びに奥様の蓼沼先生

## 入学式後には雄湊キャンパスで懇親会

懇親会は、雄湊キャンパス内のカフェテリアで行われました。多くの来賓の皆様に参加していただきました。地元の方々は、昨年閉校した市立雄湊小学校が改装され大学キャンパスに生まれ変わったことを感慨深げに話され、キャンパス内をご覧になり、また、本学に入学生を送り出してくれた高校の先生方からは、大学に対する期待の声が聞かれました。



実習室にて小児モデルに触れる見学者



懇親会で結びの挨拶をされる田村副理事



和歌山県特産料理を召し上げる来賓の方々

和歌山看護学部長 やしま たまこ 八島 妙子

## 医療保健学部看護学科『五反田ビジョン2030』を策定

医療保健学部看護学科では、昨年10月公表の『東京医療保健大学ビジョン』をふまえ、「個性の尊重」と「自由な発想」を基盤におき、これからの10年を見据えた本学科のビジョンとして『五反田ビジョン2030』を策定しました。キーワードとして「地域への愛へこたれない力」を育てる、①変革と創造②技と心の育成③生涯学習の支援④グローバル化への対応と発信⑤チームで地域共創⑥自由な発想と研鑽——の6つのピース（イメージ図参照）から、ビジョンの実現を目指します。

これから10年は、高齢人口の増大に加え、多様な健康問題を抱えるあらゆる世代の人々が地域で暮らすようになります。そこで本学科では、看護職のもつべき“へこたれない”力（変化する社会で多様な人々のニーズに対応すべく、専門知識・技術を絶えず高めながら、仲間と協力して経験したことのない困難にも立ち向かい、心あるケア提供ができる力）を育てていきたいとの思いを込め、2030年に向けたビジョンの中で打ち出すことにしました。

地域保健活動演習（授業）と  
地域の健康づくり事業（社会貢献）のコラボ実践

**東京医療保健大学**  
健康づくり  
学生と一緒に楽しみながら  
しませんか？

東京医療保健大学では、この度、品川区の幅広い年代の方々が健康で生き生きと過ごすことができるよう、健康に関する催し物を企画しました。地域の絆を強めながら健康について考えるきっかけになればと願っています。

**2018年5月18・25日 6月1・8・15日 金**  
毎回金曜 10:00-12:00  
東京医療保健大学 体育館  
(品川区東五反田 4-1-17NTT 関東病院向い)  
運動が苦手な方もご心配りません  
※室内用運動靴をご持参ください  
ない場合は外履き運動靴の場合、靴底を拭かせていただきます。

| 日程    | 内容予定                                                                     | 講師                                 |
|-------|--------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|
| 5月18日 | 1. チアダンス(ウェルカムダンス)<br>2. 地域の絆づくりと健康について                                  | 東京医療保健大学 JASMINE<br>桜美林大学 芳賀博先生    |
| 5月25日 | 1. 大道芸・歌・手品・バルーンアート等<br>2. 子どもから大人まで楽しめる！脳活性化エクササイズ                      | 凸凹ズ 当大学卒業生<br>シナプロロジー<br>株式会社ルネサンス |
| 6月1日  | 1. 落語で、こころも体も元気になろう<br>2. 楽しく学ぶ健康寿命<br>3. みんなで楽しむフラダンス                   | 立川志らら<br>紙芝居健康教育グループ<br>健康・介護フラ協会  |
| 6月8日  | 1. 歌に合わせて体を動かそう！心も体も健康に<br>2. いきいき脳を鍛える指体操                               | 第一興商<br>ここからスマイル<br>健康大学しながわ       |
| 6月15日 | 1. 健康維持のための体力測定会<br>2. 交流会 地域の人々でやる 絆をいかした『震災対策』<br>3. チアダンス(またお会いしましょう) | 桜美林大学 芳賀博先生<br>東京医療保健大学 JASMINE    |

※すべてご参加いただきたいですが、1回から参加可能です。

ご近所の方、お友達を作りたい方、子育て中の方、学生と交流したい方、最近引っ越してきた方、地域とのつながりがほしい方、お子さん・お孫さんと一緒に参加したい方、どなたでも大歓迎です！！

東京医療保健大学 医療保健学部 看護学科 地域看護学領域  
佐々木 淑香 山本 氏原

参加申し込み TEL: 03-5421-7655 FAX: 03-5421-3133  
お席まだあります！！ E-mail: chiiki@thcu.ac.jp

2018年度より、医療保健学部看護学科2年生の必修科目「地域保健活動演習」において、地元・品川区民の健康づくりを目的とした社会貢献事業を東五反田・八潮地区の2か所で展開していきます。具体的には、大道芸（ホスピタルクラウンを目指す卒業生が実演！）、フラダンス、落語、歌などの、幅広い年代の方々が楽しめるプログラムの後に学生企画の交流会を予定しています。

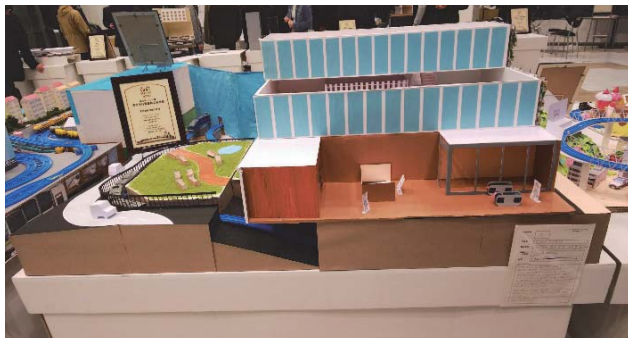
今、地域の課題となっている高齢者の孤独死や子育ての孤立・虐待等を予防・防止するためにも、住民と大学が一緒に地域のソーシャル・キャピタルを活用し、健康づくりをすすめていくことが重要です。学生たちは、区の資料などをもとに地域の状況を把握しながら企画・実践に関わることで、人々の暮らしや健康への思いを理解し、また、個別の関わりだけでなく支え合いを育む支援を学ぶことが期待されます。

医療保健学部 看護学科 地域看護学領域  
教授 渡会 睦子

## ペーパージオラマグランプリ2018受賞

私が顧問をしている「手話ボランティアサークル」のメンバーに、高校時代からペーパージオラマに取り組み、いろいろなイベントで作品を展示している医療栄養学科の学生がいますので、ご紹介いたします。

3年生の杉江奈美さんがリーダーで、他に山中歩さん、塚田真由さん、藤本乃杏さんの4名です。今年3月に行われた「ペーパージオラマグランプリ2018」では、プラレール部門で東急電鉄賞、プラモデル部門ではプラモデルメーカー「ハセガワ」の企業賞を獲得し、その作品はゴールデンウィーク中、東急百貨店たまプラーザ店で展示されました。ジオラマ作成の腕前は、相当なものようで、品川

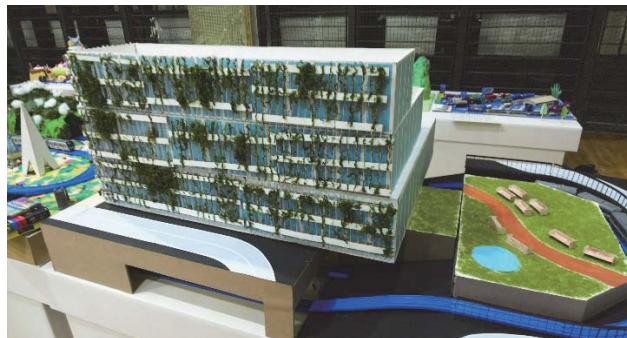


区立品川歴史館などから歴史的建造物のジオラマ製作の依頼を受けているとのこと。

杉江さんは高校時代から、各種ボランティア活動に参加しており、ジオラマ作成もボランティアとして始めたとのこと。

将来は、「管理栄養士の仕事と両立させて、社会に貢献したい、夢を是非実現させたい」と語る杉江さんたちの希望に拍手を送るとともに、今後の活躍を期待したいと思います。

医療栄養学科 准教授 <sup>かんだ ひろこ</sup> 神田 裕子



受賞した作品の写真

## 研究室紹介 加藤隆幸教授

医療保健学部医療栄養学科で解剖生理学の関連科目を担当しています加藤隆幸と申します。本号の「こころ」で本研究室を取り上げていただけるという栄誉に預かり、たいへん光栄に存じております。

本研究室が主に扱う分野では分子生物学的手法などを用いた実験系の研究がメインとなります。大阪市立大学大学院医学研究科より赴任して3年目で、これまで比較的大きな国公立大学で学んだり研究や教育に従事したりして参りました。そのため限られた施設・設備・予算・人員での研究の経験はほとんどなく、研究室の立ち上げに必要な設備・機器の手配に骨を折っており研究室と呼べるような状態には程遠いのが現状です。このような状況下ですが摂取した栄養素が生体内でどのような働きを持つのかを明らかにしていきたいと考えています。

日常的に行っている食事の内容により病気の原因になることもあれば、一方で病気の予防につながったりすることは誰しも理解している所ではあります。しかし、どのような食べ物をどの程度食べると体に良い影響を与えるのか、または悪影響を及ぼすのかは、種々の条件が複雑に絡み合っているため簡単には答えることができません。食・病の関係にどのようなメカニズムが関係しているか、食事による栄養素やエネルギーの過剰摂取・摂取不足によりどのように病気が引き起こされるか、また食べ物が病気を予防したり治したりする機序の解明に取り組んでいます。

私の知る研究室とは、最新鋭の設備と機器がありリーダーがス

タッフ数名と院生などを率いた組織でメンバー総数も多ければ数十名にもなりました。そうした組織的な研究ではサーチライトの如く遠くまで見通せます。しかし、本学の研究室はひとりで、そのような状況で研究はできるのか？私はできると考えます。研究に必要なのはアイデアで、それは知と知の接点で生まれると考えます。前述の組織研究内でもアイデアは生まれますが、方向が大きく変わることはありません。一方、本学は多職種連携を掲げ、教員や職員の有機的な協力体制があり（より推し進めて頂きたい）知と知の接点が多く、新しい方向のアイデアが生まれやすい環境です。当研究室へのご関心の有無にかかわらず、お声をかけていただければ幸いです。

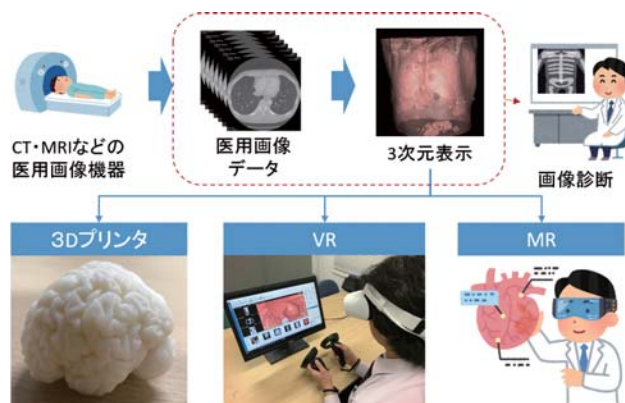


## 3DプリンタとVR・MRデバイスの導入

従来、CTやMRIなどで取得した医用画像データは、3次元コンピュータグラフィックス技術により、モニタに表示することが主でしたが、近年の仮想現実（VR：Virtual Reality）、複合現実（MR：Mixed Reality）、3Dプリンタなどの技術、デバイス、開発環境の急速な普及とともに、医療現場における医用画像データの表示方法・活用方法が変わりつつあります。シード・プランニング社の“医療分野で使われるVR・AR（Augmented Reality）・MRの市場規模予測”によると、2026年には現在の約7倍の市場規模への成長が見込まれています。医療分野において、これらの技術は、医学教育、治療、診断、リハビリ、手術支援などへの活用が期待されています。このような技術動向・医療産業の動きにいち早く対応するため、医療情報学科では、学長裁量経費による補助を利用して、3DプリンタとVR・MR用のヘッドマウントディスプレイ（HMD）を導入しました。

導入した物品の一部は、医用画像処理工学の授業で基本原理を説明し、実際に学生に体験して貰いました。最新技術・デバイスを実際に体験することにより、学生のより深い知識の習得や学習意欲の向上を期待しています。

VR、MR、3Dプリンタの各デバイスは、現在、爆発的に普及していますが、技術先行の傾向があり、これらの技術をいかに活用するかが、今後ますます重要になります。診療情報演習や医療情報ゼミなどの授業で、これらの技術の活用・応用について考える機会を設け、最新の技術・産業の動向に即した教育を行っていく予定です。



医用画像データの新たな活用方法



左から、3Dプリンタ、MR用HMD、VR用HMD

医療保健学部 医療情報学科 助教 すぎた じゅんいち 杉田 純一

## 資格・検定のための取り組み

医療情報学科では医療系、情報系の資格や検定に注力しております。平成28年度のカリキュラム改定により、進級や卒業の要件に資格や検定の合格が加わりました。そのため、様々な科目で対策のための授業を行っております。また課外でも、学科専任教員によるサポート体制を充実させております。その結果、昨平成29年度は右表の通り診療情報管理士やITパスポートの合格者が大幅に増加いたしました。今後も医療情報学科では、学生が資格や検定に合格できるよう引き続きサポートに努めてまいります。

### 資格・検定の合格者数（平成29年度）

| 種 別      | 資格・検定名     | 合格者数 | 前年比  |
|----------|------------|------|------|
| 医療系資格・検定 | 診療情報管理士    | 12名  | +5名  |
|          | 医療情報技師     | 8名   | +1名  |
|          | 医療経営管理能力検定 | 13名  | +6名  |
|          | 医療情報基礎知識検定 | 22名  | -11名 |
| 情報系資格・検定 | ITパスポート    | 40名  | +29名 |



## 「看護学体験実習」-Early Exposureの効果-

看護学体験実習は、入学3ヶ月後に行われる見学中心の実習です。1年次の早期から医療の現場に触れる実習（Early Exposure）を設定していることは、臨床実践に強い看護師の育成を目指している本学部のカリキュラムの特徴の一つです。

本実習の目的は、健康問題をもつ患者さんや看護職と接することを通し、人間を対象とする職業である看護職に必要な基本的な態度について学習することです。また、本実習は、これから4年間かけて学生が看護学を学ぶ上での動機付けになるだけでなく、今後の学習の基盤となる重要な実習であることから、基礎看護学領域だけではなく全領域の教員が指導にあたっています。

臨床看護学コースでは、毎年独立行政法人国立病院機構東京医療センターを実習施設とし、病棟、手術室、外来で実習を行っています。学生は、初めての实習に期待と不安を募らせつつ、モデルとなる看護や看護師を理解しようと実習に臨みます。

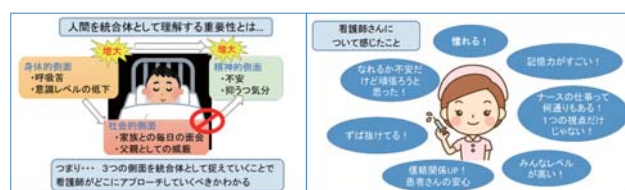
1日目には、看護部長や認定看護師、医療安全係長などの組織横断的に活躍している看護職から説明を受け、さまざまな役割や機能をもつ看護師によって日々の看護が支えられていることを理解しています。2日目は、病院・病棟・病床の療養環境に目を向け、安全や安楽の視点から多くの配慮や工夫がされていることを学びます。3日目には、入院患者さんの病状や入院生活の状況、治療・看護やそれに対する患者さんの反応についての説明を受け、人間を身体的・精神的・社会的な統合体として捉えることにより個性のある看護に繋がることを肌で感じ取ることができます。

さらに、4日目には看護師へのシャドウイングを行い、看護師の

判断や行動を支えている専門的な知識・技術・態度を目の当たりにしています。学生は、看護師が一人ひとりの患者を深く理解し、専門職としての誇りと責任をもって行動する姿に感銘を受けると同時に、自分たちの未熟さを痛感します。学生は、本実習の中でロールモデルとなる看護師に出会い、自らが目標とする看護師像を具体化させています。最終日の発表会（臨床の実習指導にあたった看護師も参加）では、4日間の学習成果に加え、目標に向かって今日から真摯に学習に取り組む決意を表明しています。

看護学体験実習後の学生たちは、「あの時の患者さんは…」と実習での体験を思い起こし、講義や演習での学びを深めています。まさしくEarly Exposureの効果だと言えます。

東が丘・立川看護学部 基礎看護学 教授 松山 友子<sup>まつやま ともこ</sup>



看護学体験実習の発表会資料（H29年度の例：一部抜粋）

## 2017年度看護師国家試験合格発表に歓喜の声

東が丘・立川看護学部では、2017年度看護師国家試験を、臨床看護学コース第5期生124名と既卒者2名、災害看護学コース第1期生89名が受験しました。看護師国家試験の出題傾向は、2016年度から大きく変更され、過去問を中心とした出題ではなく、臨床現場で必要となる知識の出題が増え、新出題基準での国試は予想通り、学生にとっては難しいものだったようですが、全員合格という嬉しい結果を学生たちは出してくれました。

大学教育の目的は国家試験対応の教育ではありませんが、国家試験に合格し、看護師の資格を取得しなければ、本学で学び得た「自ら判断し、行動できるtomorrow's Nurse」を世の中に送り出すことができずその能力を発揮できません。よって、国家試験合格は必要不可欠な条件であり、本学では国家試験対策として、国家試験対策委員会と各領域（卒業研究で各学生が所属する領域）での二重支援体制をとっています。

国家試験対策委員会は、国試対策に向けた年間計画を立案実施し、各領域では、領域に所属する個々の学生の国試合格に対する責任を担います。更に、学生国試対策委員を各領域から選出し、学生委員も支援体制に参画しています。

災害看護学コースの1期生は、3年次から東が丘キャンパスから立川キャンパスへ移動しており、学内で先輩が国試に取り組んでいる姿などを見る機会もなく、第1期生という先輩がいないところでの受験の大変さを実感しながら頑張りました。

このような状況の中、災害看護学コースでは年末に国家試験対策委員会による特別強化学習や各領域で学び得た知識の共有を図るという趣旨での学生同士の学習会を学生委員が計画し実施しています。各領域の先生方には、この学習会に向けて、領域で必要不可欠な内容を各領域に所属する学生に補講して頂いています。学生は、自らが講義を受持つことで理解が深まり、良い企画だったと考えています。更に、学生間で「全員合格」を目指す意識が生まれ、教員側の支援体制の効果もありますが学生たちの「全員合格」という合言葉が学習への意欲向上という集団心理に繋がり良い結果を得たと感じています。

2017年度、臨床看護学コースの既卒者も全員合格できました。一般的に、既卒者の合格率は非常に低い状況ですが、本学は、卒業後も合格するまで支援する体制を取っており、受験生本人の努力が一番ではありますが、この支援体制の効果もあったと考えております。

これからも本学部では、全員が看護師国家試験に合格し、「人の生命をいとおしみ、敬う」「温かい心」を持った看護師を医療現場へ送り出していきたいと教員一同祈願しております。

東が丘・立川看護学部 看護学科  
災害看護学コース 准教授 岩満 裕子<sup>いわみつ ひろこ</sup>  
（国試対策委員会委員長）

## 力強い一歩を踏み出しています!!

学生、教員、職員が協力し、試行錯誤しながら自分たちの学び舎/働く場を創っていく作業は簡単ではありませんが、これまでの経験と、関係者が手を取り合いすすめる過程は何とも心地よいものです。

千葉看護学部では、地域完結型医療、地域包括ケアに貢献できる看護職養成を目指していますが、地域を知ることはその第一歩となります。学生は合宿（5/12）での和歌山看護学部との合同研修会で、千葉県・船橋市の理解の第1歩を踏み出しました。教員も看護の日（5月12日）に行われた千葉県看護協会のイベントに参加し、血圧測定、健康相談、血管年齢、体脂肪測定、肺年齢測定などを行いました。1000人以上が参加した大盛況のイベントで、教員は、次から次へとお越しになる住民の話を丁寧に聞き、一緒に考えるなどの対応に追われました。「疲れたけれど、住民と健康や生活に関する話を直接うかがうことができ、楽しかった」という声もあり、教員も学内から地域に出向き、住民との語らいから地域理解を進めています。参加くださいました老年・在宅看護学領域の先生方ありがとうございました。

私が専門領域とする地域看護学とは、一言で言うと、「地域を看護する」を研究、実践する看護学領域です。地域看護学領域の教員は、開学後、千葉看護学部が或る船橋市の保健所と保健センターおよび公衆衛生看護学実習を受け入れて下さった千葉県内の保健所や保健センターに開学のあいさつに出向きました。

船橋市保健所長様からは、「学生さんとも一緒に船橋市のヘルスプロモーションを進めていきたい」と言う言葉も頂き、本学部が地域からも期待を頂いていることを感じました。

また、千葉県も広く特急や高速バスを利用して出向いた地域では、看護職不足が深刻な状況にあることが分かりました。その地域の看護系大学や看護専門学校は、毎年卒業生を輩出していますし、県や市、医療機関の奨学金制度が充実しているにも関わらず「若者は都心が好きなようで、刺激のある東京に行ってしまう」とのことでした。少し寂しい気持ちになりましたが、経てして私も生まれこそ東京ですが育ちは埼玉県、卒業後は都内の大学病院に勤務した口です。地域を見据える広い視野を持つ看護職養成には、まずは自分の生まれ育った「まち」をきちんと知ること、好きになることが大切で、自分が育んだ学校・学び舎、仲間を大切にする気持ちを養うことも必要であると強く感じました。

千葉看護学部はまさに、地域を見据える広い視野と柔軟な思考で看護を創造する看護職養成の一歩を踏み出しました。不安と期待をもちながらではありますが、これからも教員、職員、学生、そして地域住民、JCHOと連携しながら活動していきたいと考えています。

千葉看護学部 地域看護学領域 准教授 伊藤 美千代



## 「わかやま学」始動！

和歌山看護学部開学とともに、「わかやま学（health science of Wakayama）」が開講されました。1年次の必修科目です。3万年にわたる和歌山県の歴史や風土を紐解き、その奥深さや人々の営みの尊さを理解し、その延長上にある現在の和歌山の文化・社会と人々の生活を知ること、また、学生自身と、看護の対象が暮らす場としての和歌山県の人々の健康や生活の特徴について、明らかにしていくことを目指しています。和歌山の自然、歴史、文化、社会、人々の暮らしと健康などテーマに沿ってゲストスピーカーを招き、学生の興味関心のあるテーマについてさらに調べ、レポートし、課題についてまとめ今後の学びにつなげていきます。



ゲストスピーカーのトップは和歌山県知事仁坂吉伸先生。和歌山県の行政と課題について、“他ではあまり喋らないこと”を交えて、熱く、わかりやすく、様々な視点から、講義していただきました。この後も、尾花正啓和歌山市長をはじめ、各界をリードする先生方に講義をいただく予定です。講師の先生方も、本県出身者が100名という学生集団に話すのは滅多にない機会であり、どんなことを伝えようかと楽しみにしてくれているようです。

担当教員も、ゲストスピーカーをはじめとした先生方の講義を受けた学生の学びを、どう統合・発展・深化させていくのか、楽しみながら議論、試行錯誤を重ねています。どこにもない「わかやま学」の開講、新たなチャレンジに様々なアイデアが湧いてきます。この科目をベースとした学生達が、将来どのようなことを考え、活躍していくのか、若い力の集団に期待が膨らみます。

新たな一歩を踏み出したばかりの「わかやま学」ですが、学生、教職員、地域社会に愛され育まれ、和歌山看護学部の目玉科目の1つとして、今後も発展的に展開していきます。

## 雄湊キャンパスライフ

雄湊キャンパスの2つの校舎の間には、人工芝が張られ、カフェテラスと連続したちょっとした中庭になっています。広いスペースとは言えませんが、天気の良い日などは、非常に心地よい空間です。

心地よい空間には自然と人が集まるもの。そして、人が集まれば自然と活動が生まれるもの。談笑したり、寝転がったりから始まり、キャッチボール、パドミントン、バレーボール、お昼寝タイムなど、講義のない時間には様々なことが行われています。ある日、通りかかると、それぞれのノートパソコンを持ち出し、皆でレポート課題に取り組んでいました。校舎の間なので、屋外といえどもWi-Fi環境はばっちりです。「課題が難しい」と言いながらも、何だかとても楽しそうです。研究室からも、学生達の楽しそうな声がよく聞こえます。



時は変わって外も暗くなった頃、今度は校舎隣の体育館から、気合いのこもった声と竹刀の音が聞こえます。中を覗くと、和歌山看護学部の学生と、地域の子どもたち、社会人が集まって、剣道の稽古をしていました。定期的に集まり、活動を始めたそうです。



学生生活・キャンパスライフの充実、教養の涵養にとって欠くべからざるものです。学生自治が基本だとは思いますが、生まれたばかりの、1年生だけのキャンパスですので、組織化、予算化など、学生の主体的な活動を挫くことのない態勢を整えるべく、サポートし、内外に誇れる和歌山看護学部キャンパスを創っていきたいと思います。

## 1 年の学びを振り返って思うこと



The more I learn, the more I realize I don't know.

The more I realize I don't know, the more I want to learn. (Albert Einstein)

「学べば学ぶほど、自分がどれだけ無知であるか思い知らされる。自分の無知に気づけば気づくほど、よりいっそう学びたくなる。」天才と呼ばれたアイン

シュタインの言葉です。

私は以前行政管理栄養士をしていましたが、もっと深く個々の栄養ケアに関わりたいと考え4年前に臨床現場に飛び込みました。経験不足を知識で補うべく必死の思いで参加していた講習会で大学院の存在を知りました。「大学院でより高度な専門知識を得たい」とどちらかと言えば受け身の姿勢で安易に考えていたところがあります。ところが実際に大学院では単に既知の事実を学ぶばかりでなく、日々の気づきや疑問について過去の研究成果を基に見えない真理を探究する、その方法を学びます。この1年間研究の進め方を学び、私がこれまで想像すらしなかった視点での研究の存在やすでに明らかになっていると思いつ込んでいた事柄にも議論の余地があることを知りました。まさに、自らの無知に気づき、学びへの欲求が高まっていくことを感じています。主体的に学ぶことを知り、もっと多くの研究に触れ自分の考えを述べられるようになりたいと考えるようになりました。栄養学は、栄養素に関することから人の食行動まで多岐に渡り、自分の興味の範囲は広がるばかりで修士論文のテーマもなかなか決められずにいました。国内で管理栄養士が行う研究で論文化されているのはまだまだ少ない状況にあります。まず

は目の前の修士論文の作成に取り組み、いずれ人の幸せにつながる社会に貢献できるような研究活動に発展させたいと思っています。

この1年、研究初心者の方にとってすべてが新鮮でありまた困難の連続でした。仕事をしながらの学生生活は先が見えず不安になることもあります。そんななか、先生方の熱心な指導と大学院のスタッフの方々の温かな支援により何とか一歩ずつ進んできました。そして何よりも、一緒に学ぶ先輩や同期の仲間との出会いはかけがえのないものと感じています。日常業務の悩みや研究の方向性についてアドバイスをもらったり、励ましてもらったり、共に学んでいるからこそ仲間からの言葉が胸に響きます。残された時間は多くありませんが、このような機会に恵まれたことに感謝しつつ、仲間と励ましあい最後まで勉学と研究に励んでいきたいと思っています。

医療保健学研究科 修士課程 2年

医療栄養学領域 すきもと なおこ 杉本 尚子



本人は後列左から2番目

## 母子が支援を受けながら安心して生活できる環境を目指して



現在日本では健やか親子21（第2次）の重点課題の1つとして妊娠期からの虐待防止対策があげられています。また妊娠期の母体の心身不調は、近年重篤な問題となっており、東京都23区の妊産婦の異常死の実態調査によると、妊産婦死亡者よりうつ病などによる妊婦の自殺者が1.5倍であることが報告されました。わたしは母性看護専門看護師として都内にある総合周産期母子医療センターである大学病院に勤務しており、特定妊婦（出産後の養育について出産前の支援が特に必要な妊婦）や心身の不調を抱えた妊婦に対して妊娠前から育児期にかけて切れ目のない支援体制を整備し、日々母子と母子を取り巻く家族に関わっています。しかし、日本全国で同様の支援が受けられているわけではなく、どこの医療機関も手探り状態であり、支援が十分に行き届いているとは言い難い状況があります。どうしたら世の中の母子が支援を受けながら、安心して生活できるかと考えているときに行政機関ともつながりのある、現在の指導教授の米山万里枝教授と出会いました。米山教授とともにディスカッションをしていく中で特定妊婦支援や周産期のメンタルヘルス支援等の研究成果が政策に反映され、母子が安心して育児に取り組める体制作りの一助になればと思い、博士課程進学を決めました。

勤務をしながらの大学院進学は身体面を筆頭に大変な面もありま

すが、充実した毎日を送っています。現在は研究課題に取り組みながら、米山教授とともに地域行政機関との連携の在り方を模索し、地域保健師対象の研修の企画・運営や東京都城南地区の周産期メンタルヘルスネットワークの構築などに取り組んでいます。どれも医療機関で働いているだけでは経験できないことで、医療機関と地域行政機関をつなぐ役割を担い、活動しています。将来的には母親のメンタルヘルス不調に伴う母親の自殺の減少や虐待予防にもつながることを期待し、これからも世の中の母子とその家族のために取り組んでいきたいと思っています。

医療保健学研究科 博士課程 2年

看護学領域 さとう りょうこ 佐藤 陽子



妊婦さんと話している勤務中の一場面

## 「知性・感性・品性」を備えた専門性の高い助産師を目指して

古来より、人が生活しているところには、必ず妊娠・出産という営みがあり、その介添役がいました。介添役が「産婆」と呼ばれるようになったのは、江戸時代からです。産婆になるための教育も始められ、明治元年の太政官布告が法制度化的な糸口となりました。明治7年の「医制」によって産婆は免状制となり、40歳以上の女性で正常産10例、難産2例を扱うことが条件でした。明治32年の「産婆規則」で教育や業務範囲が明確になり、年齢は20歳以上で、修業期間は2年間とされました。その後、昭和20年頃までは産婆の黄金時代で、産婆の家の門には常に門燈が灯り、産婦から呼ばれたらいつでも駆けつける街の名士だったようです。

昭和23年の「保健師助産師看護師法（保助看法）」により看護師教育終了後の6か月教育が基準となり、施設内分娩が推奨されたことも相俟って、専門性は低下し医師の指示のもとに働く助産師の姿が一般的になりました。しかし、平成23年の「保助看法」の改正により、助産師教育は1年以上となり、産科医の加重労働問題などから院内助産システムが推奨され、アドバンス助産師も誕生して助産師の専門性は高まり、大学院修士課程での教育が年々増加しております。

本学では助産師を「性と生殖に関する専門職」と位置づけ、大学院修士課程教育で行っております。教育内容は妊産婦への関わりを中心に、広く「性と生殖の専門職」を目指して、女性のライフサイクルの各期における健康支援ができる助産師の育成に取り組んでおります。様々な「命の誕生」に立ち会う助産師は、中学生や高校生

への性と性の教育者として、生命の大切さを生で伝え、赤ちゃん人形に触れさせ、生徒たちに深い感動を与えています。生徒たちは自分が生まれたときのことを思い起し、生きている意味を考え、親への感謝の気持ちを湧きあがらせ、「産んでくれてありがとう」と、母親に素直に伝える生徒もいます。

昨今、若年女性の「梅毒」感染者の増加が大きな社会問題になっており、思春期の子どもたちへの性感染症予防教育は大切です。また、熟年者のセックスレスやパートナーとの関係性の悩みなど、性の健康への支援ができる専門職が必要とされています。性の健康支援は個人のプライベートな問題への対応であり、支援者である助産師には「知性・感性・品性」が求められます。相談者の悩みを的確に把握できる専門的知識、相手の思いを肌で感じて言葉を発することができる感性、そして、相手から尊敬される品格を持った人間性豊かな助産師を社会に送りだしていきたいと学生とともに頑張っています。



図 中学生への命の授業から

東が丘・立川看護学部 母性看護学・助産学  
教授 齋藤 益子

## 健康寿命の延伸に貢献できる保健師を大学院で育成

看護師、助産師は世界のどの国にも存在する資格ですが、保健師は欧米の医療の先進国にも存在しない日本独自の資格です。保健師は、国民の健康づくり、公衆衛生の普及・向上に貢献してきた専門性の高い職種です。

それにも拘わらず、日本の保健師教育は、大学の学部教育の4年間で看護師と保健師の養成教育が同時に行われているのが現状です。

本学部では、開設（2009年）から2年間の2011年度入学生までは、4年間の学部教育において、学生全員に看護師免許と保健師免許の両方取得させる統合カリキュラムを実施していました、しかし、医療の高度化や看護ニーズの多様化に伴い看護師として大学の4年間で学ぶべき内容や修得すべき技術が増大している状況を鑑みて、2012年度入学生より大学の4年間は看護師教育に特化させて、高い実践能力を備えた専門性の高い看護師（tomorrow's Nurse）を養成することに主眼をおいてきました。

一方、病院（施設）を中心とした「治す医療」システムでは国民の健康を維持していくことに限界があり、「予防し・治し・支える医療」へとパラダイムシフトが図られております。このような社会背景から、地域の中で住民の健康増進・疾病予防等を支援し、日本の健康寿命の延伸に貢献できる保健師の必要性が高まっています。そこで、本学看護学研究科でも2019年度より大学院修士課程に保健師免許を取得するための「高度実践公衆衛生看護コース」を設置することにしました。

高度実践公衆衛生看護コースでは、大学院教育であるという強みを活かして、社会の多様な課題に対応できる高度な能力を有する保健師の養成に主眼をおいています。中でも、これからの保健師に必

要とされる、地域住民の自立を支えられる能力、就労者・就労環境の支援ができる能力、政策や保健事業をプランニング・コーディネーション、マネジメントできる能力、疫学や統計学を研究や実践に活かせる能力、災害対応や新興・再興感染症への危機管理能力という5つの能力の育成を目指した保健師教育を行います。また、2年間かけてじっくり教育できるという強みも活かして、選択性の大学や他の大学院にはないような先駆的でユニークな科目の展開も検討しています。全国でもまだ数少ない大学院での保健師育成校として（平成29年度時点で全国10校）、これからの医療システムの中で存在感のある保健師を育成できるように教育体制を整えていきたいと思っています。

東が丘・立川看護学部 地域看護学 准教授 佐藤 潤



## 平成29年度 卒業生学科別進路状況

## 1. 概況

○本学の平成29年度卒業生の就職率は、99.8%です。(昨年98.8%)

○文部科学、厚生労働両省による、今春卒業大学生の4月1日現在の就職率は、98.0%でした。(昨年97.6%)

## 2. 各学科の状況 ※各学科の下記データは平成26年度入学生

## (1) 医療保健学部 医療情報学科

就職率：98.6%（昨年：97.3%）

(人)

|      |        |    |
|------|--------|----|
| 就職希望 | 就 職    | 73 |
|      | 未 就 職  | 1  |
| 進 学  | 大 学 院※ | 1  |
|      | 専門学校等※ | 1  |
| その他※ |        | 3  |
| 計    |        | 79 |

※大学院：大阪大学大学院医学系研究科

※専門学校等：日本競輪学校

※その他：資格取得、アルバイト従事等

## (2) 医療保健学部 医療栄養学科

就職率：100%（昨年：97.8%）

(人)

|       |       |    |
|-------|-------|----|
| 就職希望  | 就 職   | 95 |
|       | 未 就 職 | 0  |
| 進 学   | 大 学 院 | 0  |
|       | 専門学校等 | 0  |
| そ の 他 |       | 0  |
| 計     |       | 95 |

## (3) 医療保健学部 看護学科

就職率：100%（昨年：100%）

(人)

|       |           |     |     |
|-------|-----------|-----|-----|
| 就職希望  | 就 職       | 病 院 | 106 |
|       |           | 保健師 | 1   |
|       |           | 企 業 | 0   |
|       | 未 就 職     |     | 0   |
| 進 学   | 本 学 大 学 院 |     | 0   |
|       | 本学助産学専攻科  |     | 6   |
|       | 大 学 院 等※  |     | 2   |
| そ の 他 |           |     | 0   |
| 計     |           |     | 115 |

※大学院等：独協医科大学助産学専攻科

首都医校看護学部助産学科

## (4) 東が丘・立川看護学部 看護学科

就職率：100%（昨年：100%）

(人)

|       |           |     | 計   | 臨床  | 災害 |
|-------|-----------|-----|-----|-----|----|
| 就職希望  | 就 職       | 病 院 | 194 | 110 | 84 |
|       |           | 企 業 | 2   | 0   | 2  |
|       | 未 就 職     |     | 0   | 0   | 0  |
| 進 学   | 本 学 大 学 院 |     | 5   | 5   | 0  |
|       | 本学助産学専攻科  |     | 0   | 0   | 0  |
|       | 大 学 院 等※  |     | 3   | 1   | 2  |
| そ の 他 |           |     | 0   | 0   | 0  |
| 計     |           |     | 204 | 116 | 88 |

コース別就職率：100% 100%

※大学院等：名古屋市立大学大学院看護学研究科（臨床）

飯田女子短期大学地域看護学専攻科（災害）

聖路加国際大学大学院看護学研究科（災害）

## (5) 助産学専攻科

就職率：100%（昨年：100%）

(人)

|      |     |    |
|------|-----|----|
| 就職希望 | 就 職 | 19 |
|      | 未就職 | 0  |
| 計    |     | 19 |

(学生支援センター)

## 平成30年度 公開講座実施計画

|      | 品川区①                                            | 立川市                                                | 世田谷区                                                          | 品川区②                                     | 目黒区                                                |
|------|-------------------------------------------------|----------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 30年度 | こみゆにていぶらざ<br>八潮                                 | 国立病院機構<br>立川キャンパス                                  | 世田谷キャンパス                                                      | 五反田キャンパス                                 | 国立病院機構<br>キャンパス                                    |
|      | 30.6.16(土)<br>副学長・医療保健学部<br>医療栄養学科長・教授<br>小西 敏郎 | 30.10.13(土)<br>東が丘・立川看護学部<br>看護学科教授<br>中島 美津子      | 30.10.28(日)<br>医療保健学部<br>医療情報学科准教授<br>小杉 尚子                   | 30.11.17(土)<br>医療保健学部<br>看護学科教授<br>阿部 桃子 | 30.12.15(土)<br>東が丘・立川看護学部<br>看護学科教授<br>中島 美津子      |
|      | 「二つのがん体験から<br>語る、がん予防と治療<br>のための食生活」            | 「いもうと、おとうと<br>が生まれても、甘えて<br>ね～第二子誕生時の<br>第一子との関り～」 | 「音楽療法のご紹介～<br>聞くだけなんてもっ<br>たいない！音楽を<br>使ってみんな一緒に<br>元気になるう！～」 | 「トイレのことばかり<br>気になる生活から一<br>歩前へ（快便編）」     | 「いもうと、おとうと<br>が生まれても、甘えて<br>ね～第二子誕生時の<br>第一子との関り～」 |
| 募集人数 | 50名程度                                           | 20組程度                                              | 30名程度                                                         | 80名程度                                    | 20組程度                                              |

(企画部)

## 平成30年度 学生募集に係る入試実施結果

( ) は前年度 (単位: 人)

| 学部         | 学科               | 募集定員      | 志願者数          | 受験者数          | 合格者数      | 入学者数      |
|------------|------------------|-----------|---------------|---------------|-----------|-----------|
| 医療保健学部     | 看護学科             | (100) 100 | (1,418) 1,646 | (1,348) 1,560 | (334) 372 | (125) 122 |
|            | 医療栄養学科           | (100) 100 | (481) 349     | (446) 329     | (212) 252 | (98) 106  |
|            | 医療情報学科           | (80) 80   | (121) 114     | (116) 108     | (111) 107 | (58) 51   |
|            | 合計               | (280) 280 | (2,020) 2,109 | (1,910) 1,997 | (657) 731 | (281) 279 |
| 東が丘・立川看護学部 | 看護学科<br>臨床看護学コース | (200) 200 | (1,109) 1,366 | (1,051) 1,293 | (235) 221 | (111) 107 |
|            | 看護学科<br>災害看護学コース |           |               |               | (113) 177 | (106) 107 |
|            | 合計               |           |               |               | (348) 398 | (217) 214 |
| 千葉看護学部     | 看護学科             | 100       | 774           | 714           | 283       | 107       |
| 和歌山看護学部    | 看護学科             | 90        | 541           | 503           | 143       | 104       |
| 助産学専攻科     |                  | (15) 15   | (79) 67       | (77) 64       | (20) 21   | (19) 20   |

(入試広報部)

## 平成29年度 決算報告 (速報値)

(単位: 百万円)

|            | 法人     |        | 東京医療保健大学 |         | 青葉学園幼稚園 |       | 野沢こども園 |       | 合計      |         | 予算増減   |
|------------|--------|--------|----------|---------|---------|-------|--------|-------|---------|---------|--------|
|            | 予算     | 実績     | 予算       | 実績      | 予算      | 実績    | 予算     | 実績    | 予算      | 実績      |        |
| 教育活動収入計    | 55.4   | 52.8   | 3,937.1  | 3,968.9 | 213.1   | 221.1 | 235.3  | 277.8 | 4,440.9 | 4,520.6 | 79.7   |
| 教育活動支出計    | 241.1  | 288.8  | 3,697.9  | 3,813.7 | 172.6   | 173.7 | 219.3  | 248.9 | 4,330.9 | 4,525.1 | 194.2  |
| 教育活動収支差額   | ▲185.7 | ▲236.0 | 239.2    | 155.2   | 40.5    | 47.4  | 16.0   | 28.9  | 110.0   | ▲4.5    | ▲114.5 |
| 教育活動外収入計   | 0.0    | 0.0    | 1.7      | 1.6     | 0.0     | 0.0   | 0.0    | 0.0   | 1.7     | 1.6     | ▲0.1   |
| 教育活動外支出計   | 7.3    | 1.6    | 35.0     | 36.7    | 1.2     | 0.6   | 0.0    | 0.0   | 43.5    | 38.9    | ▲4.6   |
| 教育活動外収支差額  | ▲7.3   | ▲1.6   | ▲33.3    | ▲35.1   | ▲1.2    | ▲0.6  | 0.0    | 0.0   | ▲41.8   | ▲37.3   | 4.5    |
| 特別収入計      | 529.2  | 529.2  | 0.0      | 0.0     | 0.0     | 0.3   | 0.0    | 0.0   | 529.2   | 529.5   | 0.3    |
| 特別支出計      | 0.0    | 0.0    | 5.0      | 3.4     | 0.0     | 0.0   | 0.0    | 0.0   | 5.0     | 3.4     | ▲1.6   |
| 特別収支差額     | 529.2  | 529.2  | ▲5.0     | ▲3.4    | 0.0     | 0.3   | 0.0    | 0.0   | 524.2   | 526.1   | 1.9    |
| 予備費        | 0.3    | 0.0    | 11.7     | 0.0     | 1.0     | 0.0   | 1.0    | 0.0   | 14.0    | 0.0     | ▲14.0  |
| 事業活動収入計    | 584.6  | 582.0  | 3,938.8  | 3,970.5 | 213.1   | 221.4 | 235.3  | 277.8 | 4,971.8 | 5,051.7 | 79.9   |
| 事業活動支出計    | 248.7  | 290.4  | 3,749.6  | 3,853.8 | 174.8   | 174.3 | 220.3  | 248.9 | 4,393.4 | 4,567.4 | 174.0  |
| 基本金組入前収支差額 | 335.9  | 291.6  | 189.2    | 116.7   | 38.3    | 47.1  | 15.0   | 28.9  | 578.4   | 484.3   | ▲94.1  |
| 減価償却①      | 0.2    | 0.6    | 423.4    | 421.4   | 8.9     | 8.8   | 7.0    | 6.8   | 439.5   | 437.6   | ▲1.9   |
| 退職金引当金繰入②  | 0.0    | 0.0    | 40.0     | 80.6    | 0.0     | 0.0   | 0.0    | 0.0   | 40.0    | 80.6    | 40.6   |
| 資産処分差額③    | 0.0    | 0.0    | 5.0      | 3.4     | 0.0     | 0.0   | 0.0    | 0.0   | 5.0     | 3.4     | ▲1.6   |
| 除く①②③収支差額  | 336.1  | 292.2  | 657.6    | 622.1   | 47.2    | 55.9  | 22.0   | 35.7  | 1,062.9 | 1,005.9 | ▲57.0  |

(経理財務部)

# 平成29年度 各種国家試験受験結果一覧

平成29年度の各種国家試験の受験結果は以下のとおりです。

看護師国家試験においては、医療保健学部、東が丘・立川看護学部ともに初めて合格率100%を達成しました！！

また、東が丘・立川看護学部看護学科災害看護学コースは1期生が初めて受験しました。

受験者数・合格者数の（ ）は新卒者で内数である。

| 【看護師国家試験】   | 医療保健学部 看護学科 |        |           |         | 東が丘・立川看護学部 看護学科 |          |           |         |
|-------------|-------------|--------|-----------|---------|-----------------|----------|-----------|---------|
|             | 平成28年度      |        | 平成29年度    |         | 平成28年度          |          | 平成29年度    |         |
|             | —           |        | —         |         | 臨床看護学コース        | 臨床看護学コース | 災害看護学コース  |         |
| 試験実施年月日     | 29. 2. 19   |        | 30. 2. 18 |         | 29. 2. 19       |          | 30. 2. 18 |         |
| 合格発表年月日     | 29. 3. 27   |        | 30. 3. 26 |         | 29. 3. 27       |          | 30. 3. 26 |         |
| 本学受験者数      | (96名)       | 97名    | (115名)    | 117名    | (93名)           | 97名      | (124名)    | 126名    |
| 本学合格者数      | (95名)       | 95名    | (115名)    | 117名    | (91名)           | 93名      | (124名)    | 126名    |
| 合格率         | (99. 0%)    | 97. 9% | (100. 0%) | 100. 0% | (97. 8%)        | 95. 9%   | (100. 0%) | 100. 0% |
| 全国平均合格率（新卒） | 94. 3%      |        | 96. 3%    |         | 94. 3%          |          | 96. 3%    |         |
| 全国平均合格率（全体） | 88. 5%      |        | 91. 0%    |         | 88. 5%          |          | 91. 0%    |         |

| 【保健師国家試験】   | 医療保健学部 看護学科 |        |           |        |
|-------------|-------------|--------|-----------|--------|
|             | 平成28年度      |        | 平成29年度    |        |
| 試験実施年月日     | 29. 2. 17   |        | 30. 2. 16 |        |
| 合格発表年月日     | 29. 3. 27   |        | 30. 3. 26 |        |
| 本学受験者数      | (12名)       | 14名    | (19名)     | 21名    |
| 本学合格者数      | (12名)       | 12名    | (19名)     | 20名    |
| 合格率         | (100. 0%)   | 85. 7% | (100. 0%) | 95. 2% |
| 全国平均合格率（新卒） | 94. 5%      |        | 85. 6%    |        |
| 全国平均合格率（全体） | 90. 8%      |        | 81. 4%    |        |

| 【助産師国家試験】   | 助産学専攻科    |        |           |         | 大学院看護学研究科 高度実践助産コース |         |           |         |
|-------------|-----------|--------|-----------|---------|---------------------|---------|-----------|---------|
|             | 平成28年度    |        | 平成29年度    |         | 平成28年度              |         | 平成29年度    |         |
| 試験実施年月日     | 29. 2. 16 |        | 30. 2. 15 |         | 29. 2. 16           |         | 30. 2. 15 |         |
| 合格発表年月日     | 29. 3. 27 |        | 30. 3. 26 |         | 29. 3. 27           |         | 30. 3. 26 |         |
| 本学受験者数      | (16名)     | 16名    | (19名)     | 20名     | (7名)                | 7名      | (6名)      | 6名      |
| 本学合格者数      | (15名)     | 15名    | (19名)     | 20名     | (7名)                | 7名      | (6名)      | 6名      |
| 合格率         | (93. 8%)  | 93. 8% | (100. 0%) | 100. 0% | (100. 0%)           | 100. 0% | (100. 0%) | 100. 0% |
| 全国平均合格率（新卒） | 93. 2%    |        | 99. 4%    |         | 93. 2%              |         | 99. 4%    |         |
| 全国平均合格率（全体） | 93. 0%    |        | 98. 7%    |         | 93. 0%              |         | 98. 7%    |         |

| 【管理栄養士国家試験】 | 医療保健学部 医療栄養学科 |        |           |        |
|-------------|---------------|--------|-----------|--------|
|             | 平成28年度        |        | 平成29年度    |        |
| 試験実施年月日     | 29. 3. 19     |        | 30. 3. 4  |        |
| 合格発表年月日     | 29. 5. 9      |        | 30. 3. 30 |        |
| 本学受験者数      | (94名)         | 94名    | (92名)     | 92名    |
| 本学合格者数      | (88名)         | 88名    | (86名)     | 86名    |
| 合格率         | (93. 6%)      | 93. 6% | (93. 5%)  | 93. 5% |
| 全国平均合格率（新卒） | 92. 4%        |        | 95. 8%    |        |
| 全国平均合格率（全体） | 54. 6%        |        | 60. 8%    |        |

（教務部）



## 研究協力

### 産後ケア研究センターの設置について

現在、少子化、晩産化、生殖医療による妊娠の増加等により、産後の心身のケアを必要とする女性が増加している。『こども虐待による死亡事例等の検証結果等』によると、児童虐待による死亡事例は、生後間もない子どもが多くを占めており、その背景に母親の育児不安、養育能力の低さや精神疾患、産後うつ等の問題が関与することが示されている。このため、厚生労働省からの通達を受け、各自治体では、将来の児童虐待予防を目的として切れ目のない支援などの体制作りがなされている。

健やか親子21研究班の分担研究で「妊婦健康診査における情報収集と利活用に関する研究：ハイリスク母児（要支援家庭）を有効に抽出し早期介入するための項目についての研究」に取り組み、報告した。この研究も体制作りの一環として、平成28年4月より、品川区からの委託を受けての官学連携となる産後ケア事業「日帰り型」を開設した。この事業は、品川区との官学連携として、東京医療保

健大学大学院医療保健学研究科医療保健学専攻助産学領域の教員・大学院修了生を中心として、産後ケア事業従事者研修の企画および運営、事業評価等を実施している。

産後ケア（日帰り型）事業の利用者調査によると満足度は高く、現在ではキャンセル待ち状態と事業の成果が得られている。また、品川区在住3～4か月児をもつ母親への産後ケアニーズ調査によると訪問によるケアや相談の希望が多いことが明らかとなった。そこで、平成30年4月より、東京医療保健大学内に産後ケア研究センターを設置し、日帰り型に追加して、相談・訪問型も開設することになった。今後の、さらなるご支援をお願いしたい。

大学院医療保健学研究科 医療保健学専攻 助産学領域  
教授 米山 万里枝

## 国際交流 International Exchange

国際交流委員会では、平成29年度全学合同海外研修を平成30年3月11日～19日の日程で実施しました。学生32名（医療保健学部看護学科9名、医療栄養学科6名、東が丘・立川看護学部17名）、引率6名で参加しました。

今年度は、到着日に文化研修として戦艦ミズーリ記念館を見学、シャミナード大学とハワイ大学での研修をそれぞれ2日間実施し、1日は介護・看護施設を訪問しました。大学では、高度シミュレータやその他の医療機器を使った演習授業、模擬患者を使ったシミュレーション演習授業、ハワイの伝統と食文化、アメリカの看護師と管理栄養士の仕事、アメリカの在宅ケアの実態などを学習しました。座学よりも参加型のアクティブラーニングが多い研修内容で、本学学生も積極的に発言していました。また、シャミナード大学での学生交流では、本学学生が現地学生に漢字の成り立ちを教え、持参した筆ペンで漢字を書いてもらうというアクティビティも実施。参加した現地学生も本学学生もとても満足そうでした。

介護・看護施設アロハナーシング&リハブセンターでは、介護、リハビリ、栄養等の各サービスを見学し、入居者のアクティビティにも参加しました。施設の介護・看護・栄養の現場を見学することができ、学生には大きな収穫となったようです。また、本学学生は、事前に自主的に計画して全員で折った千羽鶴を持参し、同施設に贈呈して大変喜ばれました。

事前研修は後期に5回実施しました。学生はテーマ別グループワークを行い、またシマンや医療機器のオリエンテーション、外部講師による講義などを受けて現地研修に備えました。事前研修では



ハワイ大学の  
キャンパスにて



シャミナード大学での学生交流風景

学生の自主性を促すプログラム作りをした結果、異学科間の学生交流も非常に活発となり、他学科の学生の学習内容を学ぶ経験もしました。その効果は、多職種によるチーム連携を学ぶ現地研修でも、十分に発揮されました。現在、学生から提出されてきている報告書やそれぞれの体験を綴ったエッセイは、どの文章からもその満足感や学びの大きさ、今後の学習へのモチベーションがうかがえます。報告書は9月末完成の予定です。

国際交流アドバイザー 早野 真佐子

# トピックス Topics

## 平成29年度（第32回）管理栄養士 国家試験結果

第32回管理栄養士国家試験は平成30年3月4日（日）に実施され、合格発表は3月30日（金）でした。全体の受験者数17,222名のうち10,472名が合格。合格率は60.8%でした。

本学からは、新卒者92名が受験し86名（合格率93.5%）が合格しております。医療栄養学科においては、新卒の全国合格率を上回ることを目指し、平成30年度も全教員が一致団結して国家試験対策に取り組めます。

## 平成29年度診療情報管理士認定試験 の合格発表

平成30年2月に実施された平成29年度診療情報管理士認定試験の合格発表が3月末に行われました。医療情報学科の在学生のうち24名が受験し12名が合格しました。これは、開学以来初めて合格率が50%の大白に達し、また、過年度卒業生4名も合格しました。平成30年度からは認定試験の内容が改訂されるため、旧課程での最後の受験となることから、学生及び教員がともに対策等に全力を注いだ結果というように分析をしています。

## 編集後記 Editor's note

本号は前号（平成30年3月20日発行。第25号）に引き続いて新学部を特集した。

また、本号から千葉・和歌山の2つの新学部に関して毎号定期的に記事を掲載するため、ページ数を4ページ増加させて16ページ建てとした。このため、各学部学科・研究科などの組織毎にそれぞれ等しく1ページを配分して、自由なテーマで重要な動き等を掲載していただくという現行方式が維持できることになった。

残りの2ページは、これまで特集とは銘打ってもせいぜい1ページが掲載の限度であったが、今後は2ページを確保できる見通しがつき、写真・図表などを配置してより厚みのある記事構成とすることが可能になる。

新学部の開設が学報「こころ」にとって図らずも大きな誌面改革を招く結果となった。

ところで、編集子は平成27年度からこころの編集担当を命じられ、3年余りで通算7号を発行させていただいた。不慣れではあったがそれまでの編集の目的・方法を踏襲しつつ、自分なりの発想で誌面作りに努めたつもりである。しかし、

## 平成29年度ITパスポートの合格者数

医療情報学科では、ITパスポートをはじめとした資格試験の受験対策を進めているところです。経済産業省の国家試験であるITパスポートに関しては毎年度10名前後の合格者でした。平成29年度は、専任教員による学生の自学自習サポート型の教育スタイルを実験的に取り入れた結果、年間合格者数が40名となり、例年の4倍を達成しました。

## 東京医療保健大学、 品川区と包括連携協定を締結

本学と品川区とは保健・医療、教育・文化、福祉、産業振興、防災及びまちづくりの政策等における包括的な連携・協定の締結に合意し、2018年6月1日（金）に品川区役所で調印式を行いました。

本協定は、本学と品川区において区における地域の課題解決・大学の教育・研究機能の向上を推進し、地域社会の発展に寄与することを目的としており、様々な分野でより一層の協力関係の構築を図ります。



左：濱野品川区長、右：田村理事長

やはり各組織に依頼している編集委員や編集協力者の皆様のご理解ご協力があつたればこそ成しえたものであることは間違いありません。もちろん、こころの編集は本務とは言えず、あくまでも個人への職務付加業務であったので、企画部において特命担当として2つの新学部の設置準備等に奔走したことこそが本務であった。

2つの学部が立ち上がった時点で、またこの号の発行を最後として5年余り在職させていただいた本学を辞するが、後任に委ねてさらによりよい誌面作りが成されることを期待したい。

今後は、本格的な編集委員会体制を組織するなど衆知を集めて編集に当たるとともに、やや変則的な発行サイクル（年2回。6月及び3月発行）を見直すことなどが大きな検討課題になるであろう。

いずれにしても、大学を代表する広報誌の編集の一端に携わったことを誇りに思いつつ、それとともに読者の皆さんの今後一層のご愛読を願いつつ筆を置きたい。（1）